

インタビュー

アロー・エレクトロニクス・ジャパン(株)
代表取締役会長兼社長

高乗 正行氏

アロー・エレクトロニクス・ジャパン(株) 代表取締役会長兼社長

アロー・エレクトロニクス・ジャパン(株) (東京 都港区愛宕2-5-1、 ☎03-5425-1153) は、1月1日付でアロー・ユーイシー・ジャパン(株)から社名を變更し、新たなスタートを切った。

世界最大の半導体商社であるアロー・エレクトロニクス・インクは2007年に旧ユニバース・エレクトロニクス(株)の買収を機に日本での事業をスタートした。それ以降、アロー・エレクトロニクスのグローバルなビジネス基盤をフル活用し、11年からは日本国内の電子部品・半導体ネット通販大手の(株)チップワンストップを傘下に入れ、その事



アロー・エレクトロニクス・ジャパンの売り上げはどれくらいですか。
高乗 現状で約30億円となっている。もちろん今後は飛躍的な拡大を狙っている。私はアロー・エレクトロニクス・ジャパンの指揮を執る一方、チ

アの会員数も急増していますね。
高乗 そのとおりだ。現在は会員数が24万人まで来ており、取引会社数は9万社を数える。受注件数は年間80万件あり、数という点だけでいえば半導体商社の中で日本一かもしれない。この6年間で売り上げは2・5倍となり、日本市場の潜在的な可能性を裏証できた。

顧客のIoT対応に貢献

世界トップのアローの日本事業拡大

れ先への提供

価値の拡大および日本における事業拡大を目指している。アロー・エレクトロニクス・ジャパンの代表取締役会長兼社長で、(株)チップワンストップの代表取締役社長も兼任する高乗正行氏に話を伺った。

高乗さんはアロー米国本社の副社長でもありまますね。
高乗 アローグループ

は半導体商社として世界トップの地位をさらに固めにかかっている。また今後M&Aによるさらなる拡大も検討されている。

私はチップワンストップというベンチャーを上場企業にまで高める役割を果たし、かつ今後の世界における電子部品や半導体の流通のグローバルイノベーションを見据えて、アローグループの一員になり丸6年が経過した。この間の発展は素晴らしいものがあった。

チップワンストップのトップでもあり、リアルとデジタル両方のビジネス拡大を図ることも重要だと思っている。幸いにして、チップワンストップの売り上げは17年に約87億円となり、18年は100億円を突破することが間違いない情勢となっている。

チップワンストップのトップでもあり、リアルとデジタル両方のビジネス拡大を図ることも重要だと思っている。幸いにして、チップワンストップの売り上げは17年に約87億円となり、18年は100億円を突破することが間違いない情勢となっている。

IoT対応のシステムボードが欲しいというニーズは非常に高いと思っっている。確かに日本の得意とする家電産業は大きく後退しているが、今後はロボット、ドローン、IoT対応自動車、FA、さらには多くの通信機器に日本の出荷があると思っ

品ラインアップを充実させたい。
——日本の半導体商社の再編の必要性を論じておられますね。
高乗 この間に無風であった日本半導体商社もかなりの業界再編が進んできた。しかしながら、日本の商社全体を見渡してみれば、リーマンショック前に比べ従業員は1・13倍へ増えているのに、売り上げは0・96倍でしかなく、利益は何と半減している。ここに問題がある。今後さらなる業界再編が必要と思わざるを得ない。IoT時代はまさにカスタマイズ、多品種少量生産が増えてくるわけであり、デジタルビジネスの対応が求められる。アロー・エレクトロニクス・ジャパンも、チップワンストップも、より価値のある確かなソリューションを国内外の顧客に届けたいなればならない。
(聞き手・特別編集委員 泉谷渉)